

ACP (人生会議)

事例を通してみんなで語り合おう！

2023年11月11日(土) 14時～姫路市医師会館 中ホールにて標記研修会を開催し、多職種34名の方々にご参加いただきました。ACPについての講演後、事例をもとにグループで語り合いました。

国部医院 院長/姫路市医師会 副会長/姫路市在宅医療・介護連携支援センターセンター長 國部 伸也 医師に「人生会議を語ろう よりよく生きるため」をご講演いただきました。ACPの概念と、基本的な流れを4つの段階(意思形成期、意思表明期、意思決定期、意思実現期)に分け、多職種連携の大切さも含めて、分かりやすくお話いただきました。

- ・人生会議は、ACP(アドバンス ケア プランニング)の愛称で、自らが望む人生の最終段階における医療やケアについて、前もって考え、医療・ケアチーム等と繰り返し何度も話し合い、共有する取り組みのことです。
- ・AD(事前指示書)は1人でも行えるが、ACPは本人と家族、医療・ケアチーム等が、意思決定能力の低下に先だって、話し合っていくことが重要です。



くにべ のぶや
國部 伸也 医師

「家には多くの本があって読み切れていない。可能であれば自宅に帰りたい」という本人の意思をチームで支援した好事例をもとに、グループで語り合いました！



【想像しながら語り合った内容】

- ①どの職種がどのようなシーンで、ご本人の思い(上記)の表出を聞いたのだろうか？②どんな声かけ、問いかけ、話題提供をしたのだろうか？
- ③この事例の医療・ケアチームの良かったところは？

各グループで話し合った内容を共有しました。①②は、様々な職種名があがり、シーンや声かけについても、参加人数に比例して多様な可能性が語られました。③は、「本人の思いを繰り返し聞いた」「情報を多職種で共有した」という言葉がよく聞かれました。



グループワーク終了後の質疑応答では、國部医師より会場の皆さんに話題の投げかけなどもあり、ACPや医師との連携(情報共有や相談)等について、活発な意見交換が行われました。会場開催ならではの、互いの顔を見ながら、そして、参加者皆で会場の雰囲気を作りながら語り合うことができました。

アンケートより(一部抜粋)

- ・どのような段階から、どのような手段で情報収集するべきか、本人の思いをどう汲み取っていくのが深めることができた。
- ・今までのACPの捉え方と研修会に参加し学んだ後のACPの捉え方が違っており、どんなプロセス、段階を経て、その人のACPに繋がるのかを自分なりに理解出来た。
- ・本人の意思確認をチームで行い共有していくことをより意識しながら仕事を進めて行けると思います。
- ・参加された方々の年齢や職種関係なく積極的な意見交換がみられました。モチベーションが向上しました。

今後の研修会情報、参加お申込みは、センターホームページ「研修会スケジュール」をご確認ください